

◎指示があるまで開かないこと。

(令和8年2月7日 16時00分～18時30分)

注意事項

1. 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間30分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

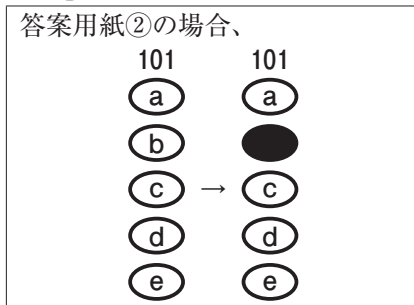
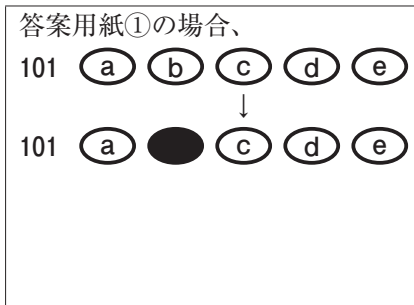
(例1) 101 医師免許を付与するのは
 どれか。

- a 保健所長
- b 厚生労働大臣
- c 地方厚生局長
- d 都道府県知事
- e 内閣総理大臣

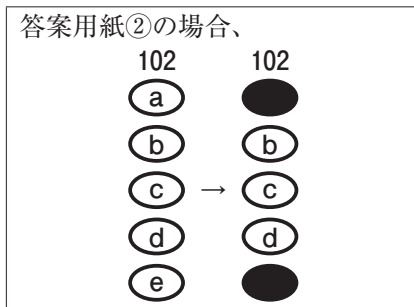
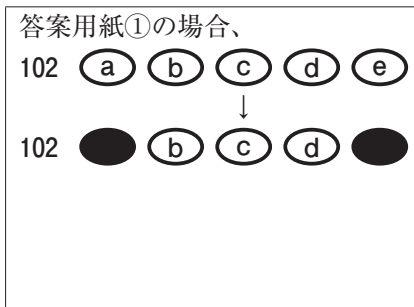
(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「b」であるから答案用紙の**(b)**をマークすればよい。



(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の**(a)**と**(e)**をマークすればよい。



- 1 ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉が主に感染する細胞はどれか。
 - a 好酸球
 - b 好中球
 - c 好塩基球
 - d リンパ球
 - e Kupffer 細胞

- 2 AED〈自動体外式除細動器〉の使用で正しいのはどれか。
 - a 死戦期呼吸を認める場合は使用しない。
 - b 胸が濡れている場合は拭いてからパッドを貼る。
 - c 衣服の上からパッドを貼る。
 - d ショックは不要との音声が出たらパッドを外す。
 - e 意識が回復したら電源を切る。

- 3 健常な妊婦において、妊娠初期に比し妊娠末期で生理的に低下するのはどれか。
 - a PaCO₂
 - b 心拍出量
 - c 腎血流量
 - d インスリン抵抗性
 - e 血漿フィブリノゲン

- 4 成人眼球で正視の眼軸長に最も近いのはどれか。
- a 14 mm
 - b 24 mm
 - c 34 mm
 - d 44 mm
 - e 54 mm
- 5 地球環境の変化により懸念されているのはどれか。
- a 気候変動によるデング熱の増加
 - b 海洋汚染によるクレチン症の増加
 - c 酸性雨による抗酸菌感染症の増加
 - d オゾン層の破壊による呼吸器疾患の増加
 - e 森林面積の減少によるアレルギー疾患の増加
- 6 健康日本21(第三次)における健康寿命の定義で正しいのはどれか。
- a 自立歩行ができる期間
 - b 働くことができる期間
 - c 医療を受けていない期間
 - d 定期的な通院をせずに生活できる期間
 - e 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

- 7 予防接種法に規定されている定期接種で正しいのはどれか。
- a 実施主体は都道府県である。
 - b 子宮頸癌ワクチンは対象外である。
 - c 全ての定期接種の費用は全額公費で負担される。
 - d MR ワクチンは接種対象者に接種を受ける努力義務がある。
 - e 接種対象者は副反応を疑う症状が発生した時に報告する義務がある。
- 8 疾患と末梢血所見の組合せで誤っているのはどれか。
- a 骨髄線維症 ————— 涙滴赤血球
 - b サラセミア ————— 標的赤血球
 - c ビタミン B₁₂ 欠乏症 ————— 環状鉄芽球
 - d 高ガンマグロブリン血症 ————— 赤血球連鎖形成
 - e 血栓性血小板減少性紫斑病 ————— 破碎赤血球
- 9 2023(令和5)年国民生活基礎調査で高齢者世帯のうち単独世帯の割合に最も近いのはどれか。
- a 10%
 - b 20%
 - c 30%
 - d 40%
 - e 50%

- 10 公費医療制度と根拠法の組合せで正しいのはどれか。
- a 結核患者の入院 ————— 検疫法
 - b 未熟児の養育医療 ————— 生活保護法
 - c 精神障害者の措置入院 ————— 精神保健福祉法
 - d 指定難病医療費助成制度 ————— 健康保険法
 - e 小児慢性特定疾病医療費助成制度 ——— 障害者自立支援法
- 11 医師法で規定されていないのはどれか。
- a 共用試験(CBT、OSCE)
 - b 医師国家試験
 - c 医籍登録
 - d 臨床研修
 - e 保険医の登録
- 12 我が国の精神保健医療福祉の現状で正しいのはどれか。
- a 自殺による死亡数は、男性より女性の方が多い。
 - b 自殺の原因・動機で最も多いのは、家庭問題である。
 - c 精神疾患を有する入院患者数は、年々減少している。
 - d 精神疾患を有する外来患者の疾患別内訳は、統合失調症が最も多い。
 - e 精神科病棟に入院している患者の疾患別内訳で、認知症の割合は、年々減少している。

13 2019年時点の世界の5歳未満児死亡原因で、下記のうち最も高い割合を占めるのはどれか。

- a 下痢
- b 熱傷
- c 白血病
- d 急性肝炎
- e 乳幼児突然死症候群〈SIDS〉

14 女性の骨盤内解剖で正しいのはどれか。

- a 尿管は腹腔内を走行する。
- b 卵巣動脈は腎動脈から分枝する。
- c 子宮円索は基靭帯の一部を構成する。
- d 子宮動脈は内腸骨動脈から分枝する。
- e Douglas窩とは子宮と膀胱の間を指す。

15 健康増進法に基づく**事業でない**のはどれか。

- a 受動喫煙防止対策
- b 国民健康・栄養調査
- c 国民健康づくり運動
- d 市町村によるがん検診
- e 特定健診・特定保健指導

- 16 3歳児健康診査の項目に含まれないのはどれか。
- a 身体発育状況
 - b 言語障害の有無
 - c 歯の異常の有無
 - d 胸部エックス線撮影
 - e 予防接種の実施状況
- 17 放射線による外部被ばくの線量低減のために考慮する因子で誤っているのはどれか。
- a 作業時間
 - b 空間線量率
 - c 遮蔽物の厚さ
 - d 放射線源との距離
 - e N 95 マスクの着用
- 18 高齢者における初発のけいれんの原因で最も多いのはどれか。
- a うつ病
 - b 脳腫瘍
 - c 脳卒中
 - d Parkinson 病
 - e 脊髄小脳変性症

- 19 リハビリテーションの原則で誤っているのはどれか。
- a 発症早期から開始する。
 - b 患者自身の意思を尊重する。
 - c 患者の QOL の向上を目的とする。
 - d 障害の軽減より疾患の治癒を優先する。
 - e ゴールは患者、家族、専門家からなるチームで共有する。
- 20 メタ分析<メタアナリシス>で正しいのはどれか。
- a 観察研究は対象とならない。
 - b 小規模な研究の結果は反映されない。
 - c 結果はファンネルプロットで提示される。
 - d 出版バイアスを制御するための方法である。
 - e 複数の研究の結果を統合するための方法である。
- 21 神経性やせ症<神経性無食欲症>にみられる症状はどれか。
- a 異食
 - b 過活動
 - c 被毒妄想
 - d 不潔恐怖
 - e させられ体験

- 22 医原病はどれか。
- a 癌の化学療法中に発生した遠隔転移
 - b 妊娠中の風疹感染による子どもの難聴
 - c 通信販売で購入した健康食品による肝障害
 - d グルココルチコイドの長期使用による骨粗鬆症
 - e 市民による AED(自動体外式除細動器)の使用後の死亡
- 23 健常若年者の胸部診察で聴取されることがあるのはどれか。
- a III音
 - b IV音
 - c 心膜摩擦音
 - d 心膜ノック音
 - e 僧帽弁開放音
- 24 我が国の出生数の低下に最も影響しているのはどれか。
- a 核家族の増加
 - b 離婚率の増加
 - c 平均寿命の延伸
 - d 人工妊娠中絶件数の増加
 - e 女性人口(15～49歳)の減少

25 成人に対するアドバンス・ケア・プランニング〈ACP〉の実施において正しいのはどれか。

- a 医療チームの方針を優先する。
- b 終末期に入ってから実施する。
- c 安易に希望を変更しないように説明する。
- d 患者の意思決定能力が不十分な場合は実施しない。
- e 病状が進行すると出現するかもしれない症状を説明する。

26 高額療養費制度で患者の年齢に加えて月の自己負担限度額を規定する条件はどれか。

- a 疾患の種類
- b 治療の種類
- c 疾患の罹病期間
- d 加入者の所得水準
- e 受診医療機関の規模

27 欠乏すると皮膚炎をきたすのはどれか。

- a 鉄
- b 銅
- c 亜鉛
- d 葉酸
- e セレン

- 28 汚染のない皮下組織までの創を縫合する際、まず行うべきことはどれか。
- a 軟膏を創へ塗布する。
 - b 鎮痛薬を筋肉注射する。
 - c 抗菌薬を静脈内投与する。
 - d 破傷風トキソイドを接種する。
 - e 局所麻酔薬アレルギーについて問診する。
- 29 高齢者に対する在宅医療での医療的行為で介護福祉士が**実施できない**のはどれか。
- a 排泄後の陰部の洗浄
 - b 持続静脈注射の注射針抜去
 - c パルスオキシメーターの装着
 - d 自動血圧測定器による血圧測定
 - e 電子体温計による腋窩体温測定
- 30 表皮内に存在するのはどれか。
- a 皮脂腺
 - b 肥満細胞
 - c 毛母細胞
 - d 線維芽細胞
 - e Langerhans 細胞

31 障害により嘔声を引き起こす神経はどれか。

- a 横隔神経
- b 顔面神経
- c 舌咽神経
- d 反回神経
- e 交感神経幹

32 産後休業期間で正しいのはどれか。

- a 出産翌日から4週間
- b 出産翌日から8週間
- c 出産翌日から1年間
- d 分娩予定日翌日から4週間
- e 分娩予定日翌日から8週間

33 肝臓で合成されるのはどれか。2つ選べ。

- a アルブミン
- b アンモニア
- c 間接ビリルビン
- d γ -グロブリン
- e プロトロンビン

34 食後にインスリン分泌を促進して血糖値を下げるホルモンはどれか。2つ選べ。

- a グルカゴン
- b アドレナリン
- c ソマトスタチン
- d グルカゴン類似ペプチド〈GLP-1〉
- e 糖依存性インスリン放出ペプチド〈GIP〉

35 他覚的な聴力検査はどれか。2つ選べ。

- a 音叉検査
- b 耳音響放射〈OAE〉
- c 語音聴力検査
- d 純音聴力検査
- e 聴性脳幹反応〈ABR〉

36 救急外来で小児を診察した研修医から指導医への報告を以下に示す。

研修医：「1歳の女児です。3日前から発熱、咳嗽、鼻汁、眼脂が続き、本日から四肢、体幹に皮疹が出現したため来院しました。意識は清明で、体温39.9℃。咽頭発赤があり、頬粘膜に白い斑点があります。咳嗽がひどくroom airでSpO₂が92%です。10日前に家族で東南アジアに旅行に行き、5日前に帰国しています」

指導医：「保健所への対応はどうしますか」

これに続く研修医の返答で最も適切なのはどれか。

- a 「届け出る必要はありません」
- b 「直ちに届け出る必要があります」
- c 「3日以内に届け出る必要があります」
- d 「7日以内に届け出る必要があります」
- e 「症状の改善後に届け出る必要があります」

37 1か月の男児。1か月健診のため両親に連れられて来院した。在胎39週、出生体重3,300g。完全母乳栄養である。ぐずるため1～2時間おきに母乳を与えており、1回の授乳時間に30～40分かかっている。母親は育児不安と寝不足とを訴えている。身長55cm、体重3,400g。体温37.0℃。脈拍116/分、整。呼吸数30/分。身体所見に異常を認めない。

両親への説明で適切なのはどれか。

- a 「糖水を与えましょう」
- b 「お母さんの愛情不足です」
- c 「人工乳を追加しましょう」
- d 「授乳回数を増やしましょう」
- e 「授乳時間を延ばしましょう」

38 38歳の女性。3か月前に結婚し、挙児を希望して夫とともに妊娠前相談のため産婦人科に来院した。3年前から本態性高血圧症と診断され、カルシウム拮抗薬を内服している。直近6か月間の家庭血圧は110～120/70～80 mmHgで安定している。夫婦は高血圧治療が妊娠に及ぼす影響を心配している。

適切な説明はどれか。

- a 「今から降圧薬は中止しましょう」
- b 「今から降圧薬をメチルドパに変更しましょう」
- c 「妊娠しても現在の治療を継続しましょう」
- d 「妊娠したら降圧薬を中止しましょう」
- e 「妊娠したらアンジオテンシン変換酵素〈ACE〉阻害薬に変更しましょう」

39 46歳の男性。健診で高血圧と脂質異常症を指摘され来院した。1年前から腰と両膝の痛みがある。身長168 cm、体重100 kg。脈拍68/分、整。血圧148/92 mmHg。尿所見：蛋白(－)、糖(－)、ケトン体(－)。血液生化学所見：AST 32 U/L、ALT 46 U/L、尿素窒素18 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、空腹時血糖98 mg/dL、HbA1c 5.4%(基準4.9～6.0)、総コレステロール222 mg/dL、トリグリセリド235 mg/dL、LDLコレステロール118 mg/dL。

まず行うべき治療はどれか。

- a 食事療法
- b スリーブ状胃切除術
- c SGLT 2 阻害薬の投与
- d 長時間ジョギングの指導
- e GLP-1 受容体作動薬の投与

40 9歳の男児。陰毛発生を主訴に母親に連れられて来院した。6歳ごろからクラスで一番背が高かった。1年前から陰毛が発生し、最近、腋毛もみられるようになったため、母親が不安になり来院した。既往歴に特記すべきことはない。意識は清明。身長150 cm(+3.6 SD)、体重52 kg。肥満度30%。体温36.8℃。血圧116/78 mmHg。口腔内に異常を認めない。甲状腺と頸部リンパ節の腫大を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。皮疹を認めない。頭部単純MRIで視床下部から鞍上部にかけて径3 cmの腫瘤を認める。

この児に認めるのはどれか。

- a 多汗
- b 頰脈
- c 小陰茎
- d 女性化乳房
- e 精巣容積増大

41 68歳の女性。呼吸困難を主訴に救急車で搬入された。自宅トイレに行った際に呼吸困難を訴え倒れたため家族が救急車を要請した。1か月前に乳癌と診断され、手術を予定していた。意識レベルはJCS I-3。身長158 cm、体重72 kg。体温36.3℃。心拍数118/分、整。血圧78/46 mmHg。呼吸数36/分。SpO₂90% (リザーバー付マスク10 L/分 酸素投与下)。心音はII音の亢進を認めるが、呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。心エコー検査で左心の圧排像を認めたため、体幹部と下肢の造影CTを撮影したところ肺動脈の広範囲および下肢深部静脈に血栓を認めた。ヘパリン5000単位の静脈投与を行った。その後ストレッチャーから病室のベッドに移動させた際に、意識レベルが低下し頸動脈を触知しなくなった。直ちに心肺蘇生を開始したが心拍が再開しない。

次に考慮すべき治療はどれか。

- a 緊急ペーシング
- b ワルファリン投与
- c 下大静脈フィルター留置
- d 植込み型除細動器(ICD)植え込み
- e ECMO(Extracorporeal membrane oxygenation)装着

42 22歳の女性。職場の健診で尿糖陽性を指摘され来院した。身長147 cm、体重42 kg。脈拍72/分、整。血圧98/60 mmHg。身体所見に異常を認めない。

次に行うべきことで、誤っているのはどれか。

- a 妊娠の除外
- b 家族歴の聴取
- c 血糖値の測定
- d 尿沈渣の確認
- e 食事療法の開始

43 50歳の男性。胃がん検診の上部消化管造影検査で異常を指摘され精査のため来院した。現在、自覚症状はない。意識は清明。身長170 cm、体重62 kg。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧134/78 mmHg。呼吸数14/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。咽頭に発赤を認めない。甲状腺と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。精査のため経口で上部消化管内視鏡検査を施行することとした。前処置としてリドカインによる咽頭麻酔を行ったところ、「喉がつまる感じがあり、息苦しい」と本人が訴えた。前腕部に紅斑と膨疹を認める。

現時点で適切な対応はどれか。

- a 自然軽快を待つ。
- b 咽頭麻酔を追加する。
- c 経鼻内視鏡検査に変更する。
- d バイタルサインを確認する。
- e 水道水によるうがいを勧める。

44 75歳の女性。最近①疲れやすく、②日中も眠気が強いことを主訴に来院した。③歩く速度が遅くなり、脚が細くなったと感じている。身長150 cm、体重40 kg (④半年間で3 kgの体重減少)。⑤握力は右14 kg、左11 kgであった。

下線部のうち、身体的フレイルか否かを判断する上で、必要な項目として誤っているのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

45 85歳の女性。左大腿骨頸部骨折で入院中である。2週間前に人工骨頭置換術が施行された。病棟看護師から、容態が急変したと連絡があった。担当医らが直ちに病棟に駆けつけて蘇生術を行ったが死亡した。ベッド脇にいた看護師が「点滴の側管から誤って消毒薬を注入してしまった」と泣きながら説明した。左前腕部の点滴刺入部から肘部にかけての皮膚に、紫色の血管網がみられた。

死亡確認後の対応で正しいのはどれか。

- a 家族には病死であると説明する。
- b すぐに点滴を抜去して処分する。
- c 24時間以内に異状死の届出をする。
- d 心不全と記載した死亡診断書を発行する。
- e 看護師には事実を話さないよう口止めする。

46 36歳の初産婦。妊娠32週。前置胎盤と診断され、妊娠37週で帝王切開分娩を予定している。過去に大きな手術歴や輸血歴はない。高血圧症で内服治療中である。術中に出血が予測されるため、術前に自己血輸血を計画し、患者に説明した。

この患者への説明で誤っているのはどれか。

- a 「7日間連続して貯血します」
- b 「同種輸血に比べて輸血に伴う感染症のリスクは低いです」
- c 「術中に使用しなかった自己血は術後に返血することがあります」
- d 「他人の免疫細胞によって自分の体が攻撃されるリスクはありません」
- e 「保存期間が限られているため、手術の4週間程度前から準備します」

47 78歳の男性。意識障害のため救急車で搬入された。独居。外気温35℃の中で、自宅居室で動けなくなっているところを町内会の迎えに来た知人に発見された。居室に設置してあるエアコンの電源は入っておらず、室内は高温であったという。意識レベルはJCS I-2。身長158 cm、体重70 kg。体温37.2℃。心拍数108/分、整。血圧96/54 mmHg。呼吸数18/分。皮膚、口腔粘膜、舌および腋窩は乾燥している。頸静脈の虚脱を認める。輸液とクーリングにより症状は軽快し、2日後に退院予定となった。

退院時の指導で適切なのはどれか。

- a 「お風呂のお湯は42℃以上にしましょう」
- b 「1日5リットルを目標に水分を摂りましょう」
- c 「息が上がる程度の速さのジョギングを始めましょう」
- d 「身体に扇風機の風が直接あたるようにして就寝しましょう」
- e 「室内の気温が28℃を超えないようにエアコンで調整しましょう」

48 34歳の男性。疲労感を主訴に妻とともに来院した。2か月前に上司に仕事上のミスを指摘されてから、ぐっすり眠れず疲労感が残るようになった。気分は落ち込み、趣味の釣りに行くのも億劫になり、食事も何となく美味しくなく体重が1か月で3 kg 減少した。過去に同様の症状で短期間休職したことが複数回ある。血液所見と血液生化学所見に異常を認めない。患者は、今回は仕事を休みたくないと言っている。

適切な治療はどれか。

- a 芸術療法
- b 森田療法
- c 遊戯療法
- d 精神分析療法
- e 認知行動療法

49 85歳の女性。傾眠状態を主訴に家族に連れられて来院した。以前は散歩もしていたが、2週間前から傾眠状態が強くなり徐々にADLが低下し、現在はほとんど寝て過ごしている。食事と水分はかろうじて摂取できている。体重は1か月で2kg増加した。既往歴に高血圧症、慢性腎臓病、甲状腺機能低下症があり、アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬およびレボチロキシンを朝食後に服用している。6か月前から骨粗鬆症予防のためにサプリメントとして炭酸カルシウムを1日3回毎食後に飲み始めた。診察時の意識は清明。体温36.7℃。脈拍52/分、整。血圧124/78 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂96%(room air)。びまん性の左右対称の甲状腺腫を触知するが、甲状腺結節は認めない。頸部リンパ節は触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。下肢に軽度の非圧痕性浮腫を認める。四肢に麻痺を認めない。血液所見：Hb 13.9 g/dL、白血球6,400、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン3.9 g/dL、尿素窒素18 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、血糖96 mg/dL、Na 131 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 97 mEq/L、Ca 9.8 mg/dL、TSH 24.4 μU/mL(基準0.2~4.0)、FT₄ 0.5 ng/dL(基準0.8~2.2)。CRP 0.2 mg/dL。

この患者の症状の原因で最も考えられるのはどれか。

- a 感染症
- b 甲状腺癌
- c 薬物相互作用
- d 亜急性甲状腺炎
- e 免疫関連有害事象

50 1歳2か月の女兒。予防接種の相談のため母親に連れられて来院した。1週間前に転入したばかりだった。母子健康手帳を確認すると、予防接種は順調に接種され、最終のワクチン接種は来院10日前に麻疹・風疹混合ワクチンと水痘ワクチンのそれぞれ1回目を接種していた。体温36.3℃。活気は良好で、咽頭の発赤を認めず、聴診で異常所見を認めない。

受診当日に接種可能で、かつ定期接種のワクチンはどれか。

- a 水痘ワクチン2回目
- b おたふくかぜワクチン1回目
- c インフルエンザワクチン1回目
- d 小児用肺炎球菌ワクチン4回目
- e ヒトパピローマウイルス〈HPV〉ワクチン1回目

51 70歳の男性。1週間前からの咳と労作時の息切れを主訴に来院した。3か月前に肺小細胞癌(病期ⅢA)と診断された。診断時、自覚症状はなく、すぐに化学放射線療法が開始され、放射線治療は予定通り終了した。外来で化学療法の継続が予定されている。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴は30本/日を50年間。飲酒は機会飲酒。石綿などの粉塵吸入歴はない。意識は清明。身長170cm、体重62kg。体温36.5℃。呼吸数16/分。SpO₂90%(room air)。右胸部にfine cracklesを聴取する。血液所見：赤血球468万、Hb13.9g/dL、Ht42%、白血球7,800(分葉核好中球52%、好酸球2%、単球6%、リンパ球40%)、血小板21万。血液生化学所見：LD280U/L(基準124~222)、BNP10pg/mL(基準18.4以下)。免疫血清学所見：CRP1.0mg/dL、β-D-グルカン2.2pg/mL(基準10以下)。胸部CT上の線量分布図(別冊No. 1A)と受診時の胸部単純CT(別冊No. 1B)とを別に示す。

最も考えられる診断はどれか。

- a 肺水腫
- b 細菌性肺炎
- c 放射線肺炎
- d 好酸球性肺炎
- e ニューモシスチス肺炎

別冊

No. 1 A、B

52 40歳の男性。全身の皮疹を主訴に来院した。この患者は2か月前から新しい降圧薬の効果を検討する二重盲検化ランダム化比較試験(RCT)に参加しているが、1週間前から全身に皮疹が出現した。意識は清明。体温36.6℃。脈拍60/分、整。血圧146/84 mmHg。皮膚科を紹介したところ、薬疹の疑いと診断された。研究事務局に報告し、研究プロトコールに沿って、割り付けられていた薬を休薬することとなった。なお、この臨床試験の参加者は計画通りに集まり、患者登録は終了している。

その後の手続きとして正しいのはどれか。

- a 臨床試験を中止する。
- b 新たな対象者を補完する。
- c この患者から得られたデータは処分する。
- d 試験終了後も使用された薬は患者に非開示とする。
- e この患者のデータは割り付けられた群のまま取り扱う。

53 26歳の初妊婦(1妊0産)。本日、妊娠検査薬が陽性となり来院した。2日前に頭痛を自覚し、以前から頓用していたNSAIDを内服した。経膈超音波検査で頭殿長(CRL)は3.2 cmであった。

現時点の対応で適切なのはどれか。

- a 羊水量を測定する。
- b 頭部MRIを撮像する。
- c 人工妊娠中絶を勧める。
- d 羊水染色体検査を勧める。
- e NSAIDをアセトアミノフェンに変更する。

54 79歳の女性。肺炎で入院中である。入院5日目に肺炎が改善し、退院の準備を行うこととなった。入院後にADLが低下し、移動に歩行器が必要である。息子と2人暮らし。認知機能に問題はなく、服薬管理はできる。入浴、食事および整容は自立している。要介護度は要介護1である。福祉用具貸与および外来診療を予定している。

退院に際して、この患者に必要な介護サービスはどれか。

- a 訪問栄養指導
- b 訪問入浴介護
- c 訪問薬剤管理
- d ショートステイ
- e 通所リハビリテーション

55 72歳の女性。下部消化管内視鏡検査を希望して来院した。6か月前の健康診断で便潜血陽性を指摘されたが、自覚症状がなく精密検査は受けていなかった。1か月前から便秘がちとなり、3日前から腹部膨満が出現した。昨日から悪心があり、食事量が減っている。今朝排ガスはあったが、排便はない。腹部は膨隆し、腸雑音は亢進している。

この患者に下部消化管内視鏡検査を検討するにあたり、適切な対応はどれか。

- a 制吐薬を処方する。
- b 便潜血検査を再検する。
- c 腸管洗浄液を内服させる。
- d 腹部エックス線撮影を行う。
- e バリウムを用いて上部消化管造影検査を行う。

56 64歳の男性。定期受診で来院した。10年前から高血圧症で①降圧薬を内服している。5年前から不眠症で②睡眠不足改善のためのカウンセリングを受けている。1年前の退職後から、体力維持のために週に1回の頻度で市町村による③体操教室に参加している。喫煙(20本/日)は紙巻たばこから④加熱式たばこに変更した。飲酒は⑤機会飲酒(日本酒3合(アルコール濃度15%)/回)。意識は清明。身長172cm、体重63kg。脈拍72/分、整。血圧124/74mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腿に浮腫は認めない。

下線部のうち、この患者で一次予防に該当するのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

57 35歳の女性(0妊0産)。挙児を希望して来院した。1年前に結婚してから避妊はしておらず、1か月に1回程度の性交があり、軽度の性交痛がある。初経12歳。月経周期は30~40日型、整、持続6日間。月経痛は認めない。基礎体温は2相性である。身長162cm、体重55kg。内診で子宮は正常大で、両側付属器は触知しない。血液生化学所見(月経3日目): LH 5.2 mIU/mL(基準1.8~7.6)、FSH 8.2 mIU/mL(基準5.2~14.4)、プロラクチン(PRL) 8.6 ng/mL(基準15以下)、エストラジオール 42 pg/mL(基準25~75)、テストステロン 60 ng/dL(基準30~90)。夫の精液検査は正常である。子宮卵管造影像(別冊No. 2A、B)を別に示す。

治療で適切でないのはどれか。

- a 人工授精
- b 卵管形成術
- c 性交時期の指導
- d クロミフェン療法
- e ゴナドトロピン療法

別冊

No. 2 A、B

58 58歳の男性。残便感を主訴に来院した。6か月前から残便感を自覚し、持続するため受診した。便は兎糞状であり、排便回数は3日に1回程度である。毎回強くいきんで排便しているが、排便後も残便感が持続する。既往歴に特記すべきことはない。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。直腸指診で異常を認めない。下部消化管内視鏡検査で異常を認めない。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 安静指示
- b 抗菌薬投与
- c 定期的な浣腸
- d 浸透圧性下剤投与
- e 食物繊維摂取の推奨

59 82歳の男性。脳梗塞による左片麻痺、脳血管性認知症のため入院中である。寝たきりの状態で経口摂取が困難であり、①経鼻経管栄養を行っている。右胸部違和感を訴え、今朝血痰を認めた。既往歴に慢性閉塞性肺疾患、脂質異常症、高血圧症および完全房室ブロックがある。過去の胸部単純CTでは②気腫性変化が著明であった。また③大動脈の石灰化を指摘されており、④心臓ペースメーカ植え込み術を受けている。喫煙は20本/日を52年間。意思疎通は可能であるが、⑤絶えず右半身を動かしておりじっとしてられない。胸部エックス線写真で右肺野に結節影が疑われる。原因検索のため、胸部単純CTを行うこととした。

下線部のうち、この患者の胸部単純CTで、アーチファクトの原因となるのはどれか。2つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

60 43歳の女性。3妊3産(今回の分娩を含む)。妊娠39週2日、無痛分娩目的に入院した。35歳と38歳時に経膣分娩、40歳時に腹腔鏡下子宮筋腫核出術を受けている。分娩誘発し、経膣分娩1時間後、不穏症状を認めた。心拍数140/分、整。血圧68/36 mmHg。SpO₂97%(room air)。分娩に伴う外出血量は900 mL。膣鏡診では子宮内からの出血は少量であった。経腹超音波検査で子宮内に胎盤遺残や血液貯留を認めず、A、B、Cの領域(別冊No. 3)に大量の液体貯留を認めた。

適切な処置はどれか。2つ選べ。

- a 輸血療法
- b 開腹止血術
- c 双手子宮圧迫
- d 子宮動脈塞栓術
- e 子宮腔内バルーンタンポナーデ

別 冊

No. 3

次の文を読み、61～63の問いに答えよ。

28歳の女性。右下肢の脱力を主訴に来院した。

現病歴 : 8年前に左眼がかすんで見えたが、自然に軽快した。7日前に右下肢の脱力を自覚した。5日前から、お風呂に入ったとき、お湯の温かさを左下肢で感じなくなった。2日前から、走れなくなったため受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 職業は看護師。夫と2人暮らし。喫煙は10本/日を8年間。飲酒歴はない。

家族歴 : 母が橋本病。

現症 : 意識は清明。身長162cm、体重52kg。体温36.6℃。脈拍84/分、整。血圧110/62mmHg。呼吸数16/分。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。皮疹を認めない。視力は右0.6(1.0×-1.5D)、左0.8(1.2×-1.0D)。視野に異常を認めない。瞳孔径と眼裂に左右差はなく、眼球陥凹を認めない。他の脳神経も異常を認めない。四肢筋力は、両上肢と左下肢は正常、右下肢は徒手筋力テストで3～4の筋力低下を認める。腱反射は右下肢で亢進し、右Babinski徴候が陽性である。鼻指鼻試験、手回内・回外試験で異常を認めない。左下肢で温痛覚が低下しているが、振動覚、関節位置覚に異常を認めない。右下肢で振動覚、関節位置覚が低下しているが、温痛覚に異常を認めない。両上肢では感覚に異常を認めない。排尿と排便に異常を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球460万、Hb12.2g/dL、Ht40%、白血球5,300、血小板23万。血液生化学所見：総蛋白7.0g/dL、アルブミン4.2g/dL、総ビリルビン0.8mg/dL、AST21U/L、ALT17U/L、LD145U/L(基準124～222)、尿素窒素13mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL、血糖90mg/dL、HbA1c5.3%(基準4.9～6.0)、Na140mEq/L、K4.2mEq/L、Cl102mEq/L。免疫血清学所見：CRP0.1mg/dL、MPO-ANCA2.0U/mL(基準3.5未満)、PR3-ANCA1.0U/mL(基準3.5未満)、抗アクアポリン4抗体陰性。脳脊髄液所見：初圧90mmH₂O(基準70～170)、細胞数1/mm³(基準0～2)(すべて単核球)、糖(定量)60mg/dL(基準50～75)、蛋白(定量)62mg/dL(基準15～45)。

61 来院時の神経診察所見から考えられる病巣部位はどれか。

- a 小脳虫部
- b 延髄(左外側)
- c 延髄(右外側)
- d 脊髄(左半側)
- e 脊髄(右半側)

62 頭部単純 MRI の FLAIR 像(別冊No. 4)を別に示す。同時に行われた頭部造影 MRI では異常な造影効果を認めた。

診断のために追加すべき検査はどれか。

- a FDG-PET
- b 脳波検査
- c 脳血管造影検査
- d ドパミントランスポーター SPECT
- e 脳脊髄液検査(オリゴクローナルバンド)

別 冊

No. 4

63 病態に関与し、再発予防の治療標的となるのはどれか。

- a B細胞
- b トロンビン
- c Na チャネル
- d アミロイド β
- e PD(programmed cell death)-1

次の文を読み、64～66の問いに答えよ。

22歳の女性。発熱を主訴に来院した。

現病歴 : 2週間前から39℃を超える発熱が連日出現し、1週間前に自宅近くの診療所を受診した。解熱鎮痛薬と抗菌薬が処方されたが、その後も発熱が続き、咽頭痛、膝と手指の関節痛も出現したため、受診した。

既往歴 : 3歳時に肺炎。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。体温39.4℃。脈拍112/分、整。血圧98/50 mmHg。呼吸数22/分。SpO₂96%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。左肋骨弓下に脾を1 cm 触知する。両膝と近位指節間関節とに腫脹と圧痛を認める。四肢に径1～2 cmの淡い紅斑を複数認める。皮膚硬化を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖(－)、潜血(－)、沈渣に異常を認めない。血液所見：赤血球422万、Hb 11.2 g/dL、Ht 42%、網赤血球2.2%、白血球16,300(桿状核好中球15%、分葉核好中球70%、単球6%、リンパ球9%)、血小板36万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン3.5 g/dL、IgG 1,614 mg/dL(基準861～1,747)、IgA 166 mg/dL(基準93～393)、IgM 166 mg/dL(基準50～269)、総ビリルビン0.4 mg/dL、直接ビリルビン0.2 mg/dL、AST 288 U/L、ALT 165 U/L、LD 322 U/L(基準124～222)、ALP 126 U/L(基準38～113)、 γ -GT 32 U/L(基準9～32)、CK 66 U/L(基準41～153)、尿素窒素22 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、尿酸4.9 mg/dL、血糖98 mg/dL、TSH 3.6 μ U/mL(基準0.2～4.0)、FT₃ 2.8 pg/mL(基準2.3～4.3)、FT₄ 1.6 ng/dL(基準0.8～2.2)、フェリチン2,266 ng/mL(基準20～120)。免疫血清学所見：CRP 12.2 mg/dL、抗核抗体陰性、リウマトイド因子(RF)陰性、抗SS-A抗体陰性、C3 132 mg/dL(基準52～112)、C4 51 mg/dL(基準16～51)。血液培養は陰性。

64 この患者で認める可能性が高い身体所見はどれか。

- a 脱毛
- b 手指潰瘍
- c 舌乳頭萎縮
- d Gottron 徴候
- e リンパ節腫大

65 この疾患の典型的な皮疹の特徴はどれか。2つ選べ。

- a 魚鱗癬を呈する。
- b 水疱を形成する。
- c 平熱時に消退する。
- d Nikolsky 現象が陽性となる。
- e 色調はサーモンピンクである。

66 この疾患の治療標的となるサイトカインはどれか。

- a IFN- α
- b IL-6
- c IL-17
- d IL-23
- e TNF- α

次の文を読み、67～69の問いに答えよ。

生後1時間の女児。早産児として出生し、手術室で蘇生された。

現病歴 : 母親は37歳、初産であり定期的な妊婦健康診査を受診しており、前置胎盤を認めていた。在胎36週1日に性器出血のため救急車で搬入され、緊急帝王切開にて出生した。Apgarスコア6点(1分)、9点(5分)であった。新生児蘇生術が行われ、NICUに入院した。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 身長46 cm、体重2,400 g。体温36.8℃。心拍数160/分、整。血圧66/36 mmHg。呼吸数70/分。SpO₂91%(room air)。大泉門は2 cm × 2 cmで開大している。軽度のチアノーゼを手と足に認めるが、口唇には認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音に異常を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球570万、Hb 17.9 g/dL、Ht 50%、白血球12,300、血小板25万。血液生化学所見：総蛋白6.2 g/dL、総ビリルビン2.0 mg/dL、AST 28 U/L、ALT 16 U/L、血糖88 mg/dL、Na 133 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 97 mEq/L。CRP 0.2 mg/dL。静脈血ガス分析：pH 7.25、PCO₂ 68 Torr、HCO₃⁻ 20 mEq/L。

67 手術室で新生児蘇生法に従い保温を行なった際に用いないのはどれか。

- a 温風
- b 帽子
- c 暖かいタオル
- d インファントウォーマー
- e プラスチックラップ〈ラップフィルム〉

68 呼吸障害に対し、鑑別診断を行うこととした。

別に示す物品の写真(別冊No. 5①～⑤)のうち、検体採取に用いるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



69 生後24時間が経過した。母親の母乳はまだ出ていない。患児は末梢静脈路で輸液されている。排尿を8回認める。体重2,300g。体温36.4℃。心拍数120/分、整。血圧84/42mmHg。呼吸数40/分。SpO₂97%(room air)。活気良好である。チアノーゼは認めない。大泉門は開大し平坦。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。血液所見：赤血球610万、Hb19.2g/dL、Ht54%、白血球10,500、血小板28万。血液生化学所見：総蛋白6.6g/dL、総ビリルビン5.2mg/dL、血糖92mg/dL、Na135mEq/L、K4.2mEq/L、Cl99mEq/L。CRP0.3mg/dL。静脈血ガス分析：pH7.38、PCO₂46Torr、HCO₃⁻22mEq/L。母親の病室で病状説明を行ったところ、両親は児の体重が減ったことを心配している。

適切な説明はどれか。

- a 「人工乳を開始します」
- b 「生理的な範囲内です」
- c 「母乳が不足しています」
- d 「中心静脈栄養を開始します」
- e 「点滴の水分量が不足しています」

次の文を読み、70～72の問いに答えよ。

77歳の女性。熱傷のため救急車で搬入された。

現病歴 : 本日、自宅の風呂場から叫び声が聞こえ、息子が様子を見に行ったら。熱湯に患者の下半身がつかかり、身動きがとれなくなっているところを発見され、なんとか浴槽から引きずり出された。息子が救急車を要請した。

既往歴 : 軽度認知症を指摘されている。高血圧症と糖尿病で降圧薬、血糖降下薬を内服している。

生活歴 : 息子と2人暮らし。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識レベルはJCS I-2、GCS 14(E 4 V 4 M 6)。身長154 cm、体重50 kg。体温36.8℃。心拍数108/分、整。血圧104/52 mmHg。呼吸数22/分。SpO₂ 94%(room air)。眼瞼結膜に貧血を認めない。甲状腺と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。陰部、両側下肢から足底にかけてⅢ度熱傷を認める。虐待を疑うような徴候、身体所見は認めない。警察に報告し、事件性はないと判断された。熱傷範囲(別冊No. 6)を別に示す。

検査所見 : 血液所見：赤血球486万、Hb 15.3 g/dL、Ht 47%、白血球29,760(桿状核好中球1%、分葉核好中球92%、好酸球0%、好塩基球0%、単球5%、リンパ球2%)、血小板27万、PT-INR 0.9(基準0.9～1.1)。血液生化学所見：総蛋白6.1 g/dL、アルブミン3.3 g/dL、総ビリルビン2.0 mg/dL、AST 77 U/L、ALT 27 U/L、LD 350 U/L(基準124～222)、ALP 75 U/L(基準38～113)、 γ -GT 15 U/L(基準9～32)、アミラーゼ93 U/L(基準44～132)、CK 250 U/L(基準41～153)、尿素窒素37 mg/dL、クレアチニン1.0 mg/dL、血糖280 mg/dL、HbA1c 8.3%(基準4.9～6.0)、総コレステロール237 mg/dL、Na 145 mEq/L、K 4.5 mEq/L、Cl 103 mEq/L。CRP 9.6 mg/dL。

別冊

No. 6

70 この患者で認められる身体所見はどれか。

- a 眼球結膜の黄染
- b くも状血管腫
- c 頸静脈の怒張
- d 毛細血管再充満時間延長
- e ばち指

71 初期輸液を Baxter の公式(最初の 24 時間の輸液量 = $4 \text{ (mL)} \times \text{体重 (kg)} \times \text{熱傷面積 (\%)}$)に沿って開始することとした。

初期輸液として適切なのはどれか。

	Na ⁺ (mEq/L)	K ⁺ (mEq/L)	Cl ⁻ (mEq/L)	L-lactate ⁻ (mEq/L)	24 時間の 輸液量
a	220	0	220	0	7,400 mL
b	220	0	220	0	10,000 mL
c	130	4	109	28	7,400 mL
d	130	4	109	28	10,000 mL
e	40	35	40	0	10,000 mL

72 集中治療を継続したが改善を認めず、患者は入院 5 日目に死亡した。

死亡後の対応で正しいのはどれか。

- a 系統解剖を行う。
- b 病死と判断する。
- c 警察に遺体を引き渡す。
- d 死亡診断書を発行する。
- e 医療安全支援センターに届け出る。

次の文を読み、73～75の問いに答えよ。

68歳の男性。発熱と腰痛を主訴に来院した。

現病歴 : 1週間前から腰痛、5日前から38℃台の発熱が出現した。発熱が持続し、腰痛が増悪してきたため外来を受診した。

既往歴 : 40歳台から高血圧症で降圧薬を服用している。50歳時に胃癌で①胃全摘、②脾臓摘出歴がある。5年前から慢性腎不全で週に3回③血液透析を受けている。

生活歴 : 喫煙は10本/日を40年間。④飲酒は日本酒2合を毎日。⑤自宅でカメを飼育している。

家族歴 : 母が70歳時に胃癌で死亡。

現症 : 意識は清明。身長160cm、体重52kg。体温39.6℃。脈拍108/分、整。血圧124/64mmHg。呼吸数24/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝を触知しない。腹部正中に手術痕を認める。下腿に浮腫を認めない。下位腰椎に脊椎叩打痛を認める。下肢の筋力低下は認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球340万、Hb12.4g/dL、Ht37%、白血球11,100(好中球88%、好酸球1%、好塩基球1%、単球3%、リンパ球7%)、血小板23万。血液生化学所見：総蛋白5.9g/dL、アルブミン2.6g/dL、総ビリルビン0.4mg/dL、AST15U/L、ALT11U/L、ALP82U/L(基準38～113)、 γ -GT11U/L(基準13～64)、CK50U/L(基準59～248)、尿素窒素40mg/dL、クレアチニン3.7mg/dL、尿酸2.2mg/dL、血糖110mg/dL、HbA1c5.8%(基準4.9～6.0)、Na143mEq/L、K3.5mEq/L、Cl102mEq/L。CRP14mg/dL。胸部エックス線写真で心臓郭比51%、両側肺野に浸潤影を認めない。腰椎単純MRIの脂肪抑制T2強調矢状断像(別冊No.7A)を別に示す。受診時に採取した血液培養が陽性となった。血液培養ボトル内容のGram染色標本(別冊No.7B)を別に示す。

別冊

No. 7 A、B

73 考えられる原因微生物はどれか。

- a *Klebsiella pneumoniae*
- b *Neisseria meningitidis*
- c *Pseudomonas aeruginosa*
- d *Staphylococcus aureus*
- e *Streptococcus agalactiae*

74 下線部のうち、この病態の発症に最も関連していると考えられるリスクファクターはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

75 入院となり抗菌薬治療を開始した後も発熱が持続し、患者が下肢の動かしづらさを訴えたため病棟で診察を行った。下肢の筋力低下を確認し、直腸指診も行った。直腸指診を行う際に、特に確認すべき所見はどれか。

- a 血 便
- b 直腸の腫瘤
- c 前立腺の腫大
- d 肛門周囲の圧痛
- e 肛門括約筋の筋緊張低下

